綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.493
発行責任者　阿部　友弘
編集責任者　松田　　覚

We Love Fukushima!!

～呼び覚ませ！文化と伝統を繋いだ新しい故郷（まち）への”無償の愛（アガペー）”を～

第52代理事長
阿部　友弘

はじめに

1963年、私たちの故郷であるこの福島の地に志を同じくする先輩諸兄が「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下、社団法人福島青年会議所を設立なされました。その間、時代ごとの経済情勢や社会環境に応じた明るい豊かな社会の実現に向け、歩みを止めることなく創立52周年を迎えます。先輩諸兄より受け継いだ英知と勇気と情熱の灯をさらに次の世代に繋ぐべく、「不易流行」を念頭にJAYCEEとして時代の求める姿に対応しなくてはならない部分、そして決して変えてはいけない部分をしっかりと次代へ繋ぎながら地域社会から求められる団体となるようひとづくり・まちづくりに邁進してまいります。

公益社団法人として

2013年５月に福島青年会議所は公益社団法人として登記されました。これにより法的にも我々の運動は「公益である」と認められるに至りました。これはゴールではなく新しいスタートだと考えます。維持・継続に向けた会員の資質向上を行い、その結果として地域社会からより一層信頼され、求められる団体となるよう、そして市民から愛され必要とされる団体として存続できるよう努めてまいります。

未来を担う子どもたちへ

東日本大震災から３年以上が経過しました。建物や道路の復旧は進んでいますが、福島から遠方へ避難した人はなかなか戻ってきておりません。同様に未来の福島を担うべき子どもたちも避難先から戻ることなく減少しています。ローカルコミュニティが崩壊するほどの「震災後」という困難な時代でありながらも、しっかりと子育てをしながら家族を守っている自分の親や家族、地域社会に対し誇りや愛情を持った子どもを少しでも多く育成すべく青少年育成事業を実施し未来のリーダー育成に尽力いたします。

愛する故郷のために

放射能問題は風化するどころか、実際に福島で生活している我々の予想もしない方向に進んでいるのかもしれません。一歩、福島から外に出ると誤解や偏見が未だに強く日本を覆っていると感じます。その中にあって福島に住んでいる我々が誇りと郷土愛を捨てるわけにはいきません。むしろ世界的に注目される今だからこそ、地域のたからを掘り起こし、市民が愛し誇れる郷土・福島を創出する事業を、市民を巻き込んで行い福島の元気と現状の打破を発信するべきだと思います。また、震災後の新たなるまちづくりへの契機となるような機会を創出し、市民へ提唱いたします。

会員拡大

地域の人口減少に伴って青年会議所運動の根幹で

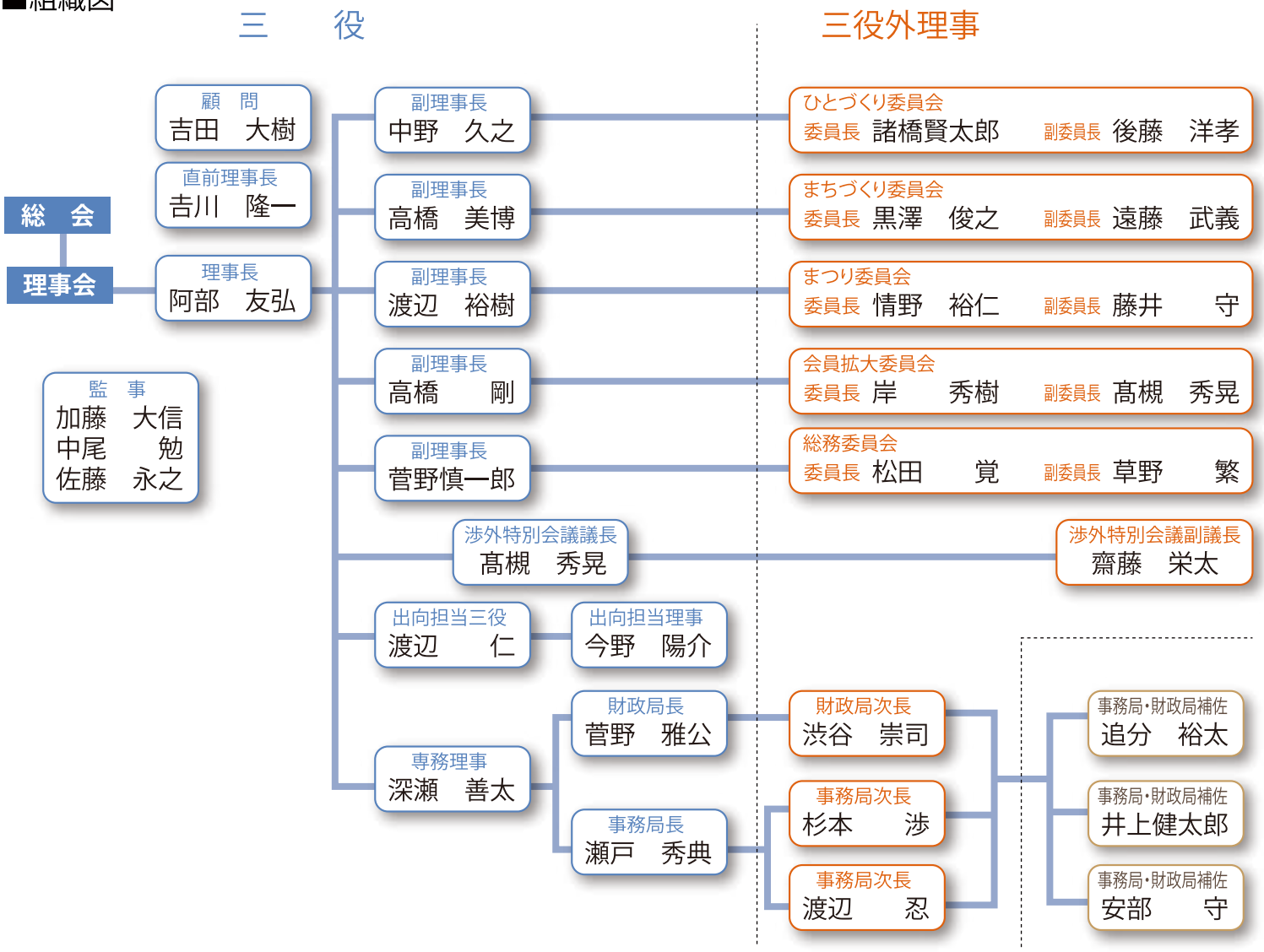
あるメンバーの減少もここ数年顕著です。先輩諸兄が築いてこられた地域社会からの信頼も会員がいることで各運動を行うことができることから由来しており、会の更なる発展のためにも会員拡大は急務であると考えます。他団体や他ＬＯＭでは昨今の厳しい経済環境・地域条件により会員拡大が困難であるとの話もあります。しかし我々の活動は間違いなく地域に必要とされています。このことに誇りを持って常に新たな試みを展開し、地域社会からの信頼と付託に応える魅力ある団体として「自己修練の場」「友情を育む場」「社会奉仕の場」を提供し多くの仲間を迎え入れられるような会員拡大を行ってまいります。

東北の夢

2013年の小畑会頭輩出、2014年のＡＳＰＡＣ山形大会開催、そして2015年に開催される全国大会東北八戸大会が新東北３つの夢として掲げられ、いよいよ集大成を迎えます。同時に2015年は同じ県北エ

リアの二本松ＪＣが浪江ＪＣと共催で東北青年フォーラムを主管します。どちらの大会も福島の復興、そして東北の復興を全国のメンバーに発信し、東北がそして福島がひとつになるまたとないチャンスです。主管ＬＯＭと共に恩返しの精神でお迎えをするために協力を惜しまず、大会の成功に向け心を一つにしていきましょう。全国のメンバーとの友情を育み増進するまたとないチャンスです。

■組織図



真の復興に向けて

2011年３月11日に発災した東日本大震災から数年が経過し、近県では復旧復興が加速しているという話も耳にします。しかしながら福島に至っては東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能事故の影響で帰還すらままならない避難されている方が数多くいらっしゃいます。福島市内にも仮設住宅で暮らす方や福島から遠く離れて暮らす福島市出身の方も同様です。インフラストラクチャーや可視的な物的復旧だけではなく、心のケアや郷土愛などのソフト面での復興には我々の活動が必須であると言っても過言ではないでしょう。多方面より差し伸べられる手に感謝と友情を感じ、広く市民へ伝えていくことこそが故郷福島の真の復興への道そのものであると感じます。市民の意識変革を喚起する事業を通して復興への一助となるよう努めてまいりましょう。

結びに

入会以来、ＪＣを自己修練の場として活動した結果、自らの成長を実感しているメンバーも多いと思います。私もその一人です。組織の性質上いつかは去らねばならない時が来ますが、成長させていただいた「福島青年会議所」に対し恩返しをしましょう。たとえばそれは成長途上の後輩に対し自らも先輩諸兄からいただいた叱咤激励を、愛情をもって伝えることだと思います。それまでできなかったことが、ある時、誰かに助けてもらいながらできるようになった。次はできずに困っている誰かを助けて、その誰かができるようになるまで助ける。その繰り返しこそが脈々と受け継がれてきた青年会議所運動の原点であるはずです。　そしてその運動の中で互いに切磋琢磨し、メンバー各自が卒業してからも愛する故郷福島のために自分で何ができるかを考え行動することが明るい豊かな社会の実現へと繋がると確信しております。

次世代へ実りある遺産を遺すこと。これは世代としての責務です。一人ひとりの力は微力ですが、福島を想い福島を愛する仲間・同志として同じ意識を持ち、持てる力を余すところなく発揮することで相乗効果を期待できます。震災後の大きなうねりの中だからこそ、市民を巻き込み、次世代へ背中を見せる行動をとり品格ある青年として共に成長してまいりましょう。

「良い種をまけば良い実がなる」ある経営者の言葉ですが、福島のより良い未来のためには我々が良い種をまく必要があります。そして我々青年に必要なのは口舌ではなく行動なのです。今だから、そして今しかできない未来への第一歩を我々の手で築きましょう。

最後に、福島青年会議所　第５２代理事長という身に余る重責を与えてくださいました全ての皆様に深く感謝申し上げると共に、私の持てる力の限りを尽くして職責を全うすることをお誓い申し上げ理事長所信とさせていただきます。

委員会紹介

ひとづくり委員会

ひとづくり委員会で青少年育成事業の開催では、未来の福島を担う子どもたちが「笑顔」になれるような事業を開催したいと思います。子どもたちの「笑顔」は親や家族にとっても地域社会にとってもなくてはならない重要なものです。その「笑顔」を少しでも多く子どもたちに与えられるように事業を企画していきたいと思います。

次に、わんぱく相撲の開催では、今年度同様に参加者の増員に力を入れ、相撲のおもしろさを多くの子どもたちに広めたいと思います。また、2015年度は福島ＬＯＭでのブロック大会の開催ですので、盛大に開催したいと思います。

2015年度ひとづくり委員会は、自分たちも楽しみながら１年間運営していきたいと思います。委員会メンバーが楽しまないと集まってくれる子どもたちも楽しくなれないはずです。

委員長　諸橋賢太郎　　副委員長　後藤洋孝

委員

阿部　秀介	石郷岡　武	井上健太郎
尾形　彰彦	菅野　仁美	今野　陽介
齋藤　栄太	佐藤　博子	土屋　令雄
誉田　憲孝	八島　成友	

まちづくり委員会

東日本大震災を受け、ここ福島の様相は一変してしまいました。放射能問題、急激な人口減少、風評被害など、様々な問題が突然そして一気に降りかかってきました。様々な試みが為されていますが、残念な事にこれらの問題は解決していません。私達のふるさとである福島を、震災以前よりも健全で明るい豊かな「まち」にするため、「まちづくり」の名のもと、活動をしていきたいと考えています。福島が福島市民にとっても、そしてその他の人たちにとっても魅力ある「まち」となるために努力してまいります。

2015年度のまちづくり委員会は、福島市のシンボルでもあります信夫山を活用しての「パークランニングレース」及び「桜の植樹事業」の実施を予定しています。第三回目となる想いの詰まった継続事業であり「ホップ・ステップ・ジャンプ」で例えるなら大きく飛躍する「ジャンプ」の時であります。どれだけのビッグジャンプとすることができるか、胸躍らせながら共に事業を作り上げていきます。

「福島といえば？」という問いに皆さんは何とお答えになりますか。きっと、幾つもの答えが出てきて、そのどれもが今一つアピールが弱いと感じているのではないでしょうか。当委員会では全国的に根付き、福島市民がふるさとへの自信を持てるような「福島といえば！」を大発掘すべく活動して参ります。

委員長　黒澤　俊之　　副委員長　遠藤　武義

委員

安部　守	石森　敏彦	追分　裕太
近野　正樹	渋谷　崇司	鈴木　泰憲
中川　亮	堀合　郁雄	山村　忠之
阿部　敏幸		

まつり委員会

まつり委員会は福島の歴史、伝統文化、現代文化、自然、人間、まつり、まつりに関わる関係諸団体等、さまざまに事業開催も含めて深く関わる委員会であり、更に「自己修練の場」「友情を育む場」「社会奉仕の場」を意識しながら福島の魅力を再認識、再確認する事を第一のステップと掲げます。

そして第二のステップとして、己を含めた市民意識変革を起こし、「震災後」という困難な時代でありながらも、しっかりと子育てをしながら家族を守っている親や家族、地域社会に対し愛情を持った子どもを少しでも多く育成できる環境、そして自分の住んでいる福島を誇りに想い自慢できる「明るい豊かな社会」の実現に、歩みを進めて行きます。

さらに第一、第二ステップを通して学んだこと、またＪＣとして諸先輩方の英知と勇気と情熱の灯も受け継ぎ【継承】、その状況で受け身にならず受け継ぎ、そして後世に伝える【伝承】を委員会の最終ステップ、最大目標とさせて頂きます。

委員長　情野　裕仁　　副委員長　藤井　守

委員
遠藤　翼　大宮　篤　尾形優一郎
齋藤　学　鈴木　優　新田浩亜吉
福井　誠　宮崎　貴志　宮森　怜
吉田　潤平　渡部　敏　阿部　真澄
安齋　源

会員拡大委員会

今年度は新たな試みとして、セミナー形式の拡大事業を行いたいと考えております。公益法人格を取得したことで、より多くの方に福島青年会議所運動・活動を知っていただき、より多くの人材に門戸を開きたいと考えております。特に女性会員やサラリーマン会員の拡大を行いたいと思います。また一般企業、事業所に対しても飛び込みで次世代幹部の会員勧誘を定期的に開催します。同時に、従来通りＯＢ・現役メンバーからの新規勧誘情報をいただき、会員拡大活動の詳細をより見える化（メール・会員向けＨＰ使用）し、全会員で共有してまいります。

ＬＯＭ内での事業にも積極的に参加し、少しでも多くの時間を共有することで、メンバーが一丸となって会員拡大をする意識を醸成してまいります。

2015年度会員拡大委員会の信念は青年会議所活動は地域社会に貢献し、品格のある人財の育成、そして一生の友情を育むということを、出会う方に１００％伝えてまいります。

委員長　岸　秀樹　　副委員長　髙槻　秀晃

委員
伊藤　大地　井上　義郎　太田　憲一
倉島　央樹　駒田　晋一　酒井　隆弘
鈴木　正人　芳賀　眞　佐藤　一樹
丹野　裕美　野尻　伸吾

総務委員会

総務委員会は当青年会議所における事務業務・管理業務等を行う事で会員メンバーの活動をより良いものにする為にサポートをする委員会です。また当委員会は現役会員とＯＢ・他団体との関わりをもち、良好な関係を保つことで、当青年会議所の運営を潤滑にする役割も担っております。

2015年は諸先輩方が培った従来の業務を継承しつつ、新たな試みを交えていきます。業務・事業・交流とあらゆる要素備えた委員会となっております。

委員長　松田　覚　　副委員長　草野　繁

委員
池田　卓也　菅野　秀美　國分　秀晃
斎藤　秀人　高橋　貴之　多田　悠紀
森藤　淳　山本　昌史　吉田　卓弘
渡辺　仁　佐藤　大輔

綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.494
発行責任者　阿部　友弘
編集責任者　松田　覚

「第三回暁まいり福男福女競走」を終えて

まつり委員会　委員長　情野　裕仁

去る2015年02月10日（火）夜20時、「第三回暁まいり福男福女競走」を開催させて頂きました。まずは、本事業の主旨に賛同し、参加して頂いた参加者の皆様、開催にあたって多大なるご協力、ご協賛頂いた各企業、団体、個人の皆様に改めてこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私達まつり委員会は今日地域が抱える問題の一つとしてコミュニティの崩壊があり、それに震災の影響が拍車をかけ、地域の特色、良い所というのが次世代に受け継がれにくくなっている現状があると考えました。そして、この事業はそれらの問題と向き合い、福島の地域資源である「信夫三山暁まいり」を市民に知っていただき、歴史、文化を理解し伝える機会、継がれる機会の場を創出する事が、コミュニティ再興の一助となり、ひいては地域の健全な発展に役立つのではないかと考え事業を開催させて頂きました。

大会前の設営準備説明は念入りに行います

冬の夜に福島市内の真ん中にそびえ立つ信夫山山麓大鳥居から旧参道の急坂を通って、羽黒神社まで駆け抜ける…。前回まではお昼の開催だったのに、どうして今回は夜間開催かについて御説明させて頂くと、「暁まいり」のメーンは10日の午後から夜間、翌朝に掛けてであって、今までの翌日お昼には「暁まいり」の雰囲気、本質が薄れてしまい市民の皆様にそれを伝える事が困難になると考えたからです。参加者の方にはよく賛同して頂けたと思っております。そういった過酷な設定で276名の参加者を頂戴し、見学者、運営者も含めると500名以上の規模で行われた様相は、冬季夜間の凍てつく寒さに夜間の闇という過酷な環境に、照明の灯りやみんなの熱いエネルギーなどが相まって幻想かつ、鬱然とした雰囲気を醸し出していました。その様相は民放ＴＶ４局夕方のニュースで大々的に取り上げていただいた程でした。過酷な環境から得られる完走の達成感と完走後の豚汁、カレー、そば、クラムチャウダーなどのふるまいは格別なものだったと思いま

羽黒神社の大わらじも夜にライトアップされて幻想的に

約300人のランナーが一斉にゴールを目指します

レース後に上位入賞者の方々と福島青年会議所阿部理事長とで記念撮影

す。また、当初懸念された怪我や事故などがなく、参加者の方々が笑顔で表彰式やふるまいを頬張る姿を見た時は、当初の目的などは忘れてしまうほど安堵しました。

本事業を実施させて頂き、改めて思うことは冒頭で御礼させて頂いた方々もでございますが、格別にまつり委員会の皆様への「感謝」があります。年末

テレビ局の取材もありました

栄誉ある福男福女の名前が刻まれます。

年始の忙しい中、自分の仕事、家庭があるにも関わらず本事業、ひいては福島、福島市民のため、活動、運動を共にして頂きました事を誇りに思い、重ねて厚く熱く御礼申し上げます。

今回、本事業を計画、開催するにあたって様々な困難に事実直面いたしました。

なにぶん前例のない夜間実施、当初の計画段階で、たくさんの方々からご意見、叱咤激励を頂戴いたしました。途中挫けそうにもなりました。しかしながら、そこで奮い起こさせてくれたのは私の中にある「信念」でした。「目的は間違ってない」「必ず良い事業になる」という強い気持ちでした。また、目的や夜間開催に変更した理由とは別に、私個人の意見としては同じ事を繰り返し行っては、最近使い古された「復興」という言葉と同じになってしまうのではないかと考えたからです。あくまで私なりの解釈で「復興」は元々あったものをベースに復活、復旧させて興す事だと考えています。震災前などから元々あったものを興して福島は活気付くのでしょうか？　震災前の福島は活気があったでしょうか？そんな疑問が私の中にはありました。もちろん私はその時、壮大に理論付けて本事業の計画してはおりません。ただ「新しい事がやりたい」「おもしろいことがやりたい」と考えただけです。そういった非合理的な意見、考えでも事業を行わせて頂いて、改めて、この福島青年会議所という団体は「新しい福

島、新しい日本」を築くために必要な団体だと私なりに深く感じました。

最後になりますが、本事業「暁まいり福男福女競走」は今後ますます、市民の皆様、福島のためを考え素晴らしい事業にしていきたいと思っておりますので、何卒、福島青年会議所共々、宜しくお願い致します。

ゴール後、安堵の表情の参加者たち

２月例会並びにドッジボール大会 設営にあたって

総務委員会　委員長　**松田　覚**

去る2月24日、福島市内の体育館において2015年度２月例会並びに福島青年会議所ドッジボール大会を開催致しました。ここ数年はボーリング大会・卓球大会と普段の例会後とは違った雰囲気の大会を開催致しております。（福島青年会議所の例会とは、目指すべき運動の方向性や政策をメンバー間で確認する場、メンバーどうしの親睦を図る場として毎月一回様々な切り口でテーマを設け、開催しているものです）

直後にレクリエーションのドッジボール大会が控えているとはいえ、例会は最大限に厳粛な雰囲気を作るべく、普段と変わらない準備で会場を設営し、理事長挨拶では今後のＪＣ活動・生活においても活かせる内容で、例会の重要性をメンバー一人ひとりが自覚できた機会でした。

例会終了後はドッジボール大会の開催です。開会宣言の後には準備運動が行われました。普段の生活では運動不足のメンバーも多いせいか、準備運動にラジオ体操を取り入れてのプログラムからちょっと苦戦するメンバーも…。ただ大勢の人数で行うラジオ体操は、懐かしさもあり、自然と笑顔になっていくメンバーも多かったです。子どもの頃とは少し違った感覚ですが、たまにはこういった体験もいいかもしれませんね。この後に大会説明を行い、ドッジボール大会の開催です。

ドッジボール大会は、会員メンバー80人を６チームに分けての開催となりました。設営側もメンバーが楽しめるかが不安でしたが、実際に始まるとそんな事はなく、歓声が飛び交う、熱気あふれるものとなりました。ちょっと普段の運動不足でなかなか動きが硬いメンバーもいましたが、みんなが一つのコートで一つのボールを追いかける姿は、観ているだけでも非常に楽しくなるものでした。普段は見れないメンバーの姿は新たな発見でした。

今回の事業目的が会員同士の交流であったため

に、普段交流の少ないメンバー同士が一緒のチームになるようにメンバー組を行いました。始めは少しぎこちない部分もありましたが、大会の途中からはチームで円陣を組んだり、会話が弾むなど、当初の目的も概ね達成できたのではないかと思います。

最後は表彰式を行い大会は閉会となりました。表彰式の景品は各メンバーが持ち合ったものです。最初から最後まで本当に手作りの大会でしたが、ＪＣの楽しさを味わえたものになったと思います。

ドッジボール大会を開催するにあたっては、普段交流のない委員会メンバーとドッジボールを通して会員交流が深まったことにより、一定の目的は達成できたのではないかと思っております。設営側としましては現地視察を兼ねました委員会、会場での臨時委員会、そして前日の会場設営準備を経て、２月例会・ドッジボール大会を開催致しました。事前準備をしっかりと行うことで、メンバーが楽しめた設営が出来たのが何よりでした。福島青年会議所は厳粛な雰囲気がある中にも、メンバー同士に楽しんでもらい、さらに自分自身も楽しむことができる、色々な要素が詰まった会だということを改めて認識できる機会となりました。

告知

新緑の信夫山を駆け抜けよう！
信夫山魅力発見！ 第３回パークランニングレース
～信夫山を桃色に染めよう！～

来る５月１７日（日）に３回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催致します。「パークランニング」は街なかを走る「シティランニング」と自然の中を走る「トレイルランニング」を合わせたものです。街の中央に位置する信夫山は、絶好のランニングスポットとなります。

３回目となる今回も、10km男女、５km男女、３km男女、３kmペアの７つのコースを設定して、記録に挑戦するランナーから家族や仲間同士で楽しむランナーまで幅広いランナーが満足できる仕様となっています。特に福島のシンボルである信夫山の魅力を知ってもらい、観光資源としての認知向上に繋がっていければと考えております。

パークランニングレースは単にレースを行うだけでなく、様々な魅力を発信してまいります。今回は食のブースとして桜の聖母女子短大との共同企画にて誕生した「桜の

聖母とのコラボ弁当２種」や地元企業とタレの開発から作り上げた「福島豚みそ生姜焼き弁当」、旬の地場野菜が中心の「地場野菜をたっぷり使った焼きそば」等、福島だから発信できる食の魅力を存分に味わって頂けたらと考えております。昨年もブースはとても賑わいまして、家族や友人同士で笑顔が絶えない時間でした。こちらはパークランニングレース参加者のみならず、一般市民の方もご飲食が可能となっております。※ご飲食は有料となっております。

パークランニングレースは「Pink Park Project」として、太子堂公園並びに護国神社に桜の植樹を専門家の指導のもとに毎年行っております。3年目を迎えた今年はまだ小さい苗木ですが、10年後、20年後の春にはきっと信夫山をきれいな桜で彩っていきたいという思いでございます。

福島市は自然に恵まれ、果物や温泉街を有する観光資源豊かな街ですが、震災や原発事故の影響で観光客の減少で福島への関心が失われていると思います。そこで、福島市の中心に位置し、福島市の観光資源の象徴でもある信夫山に着目し、「自然と共存するまち」として福島市の魅力・地力をしたいという思いで、この事業を行います。

パークランニングはもちろん、それ以外にも色々な魅力が詰まった大会となっております。たくさんの方にご来場いただいて、福島青年会議所の運動がみなさまに伝われば幸いです。会員一同お待ち致しております。

綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.495
発行責任者　阿部　友弘
編集責任者　松田　覚

新緑の信夫山を駆け抜けよう！
信夫山魅力発見！　第３回パークランニングレース
～信夫山を桃色に染めよう！～

まちづくり委員会　委員長　**黒澤　俊之**

去る５月１７日（日）に第３回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催いたしました。天候にも恵まれ、抜けるような青空の下、567名もの方々にご参加いただき、青々と生命力に満ち溢れた福島のシンボルである信夫山を駆け抜けていただきました。

３回目となる今回も１０ｋｍ男女・５ｋｍ男女・３ｋｍ男女・３ｋｍペアの７つのコース設定を行い、記録を狙うランナー・自然を楽しむランナー・家族の絆を深めるランナーと幅広いランナーに満足いただける仕様と致しました。そして、より魅力的な大会とすべく随所に趣向をこらした設えを行いました。この設えは、単に嗜好的なものに留まらず福島の魅力を十分に発信し得たものと確信しております。中でも、スタート・ゴール会場を同一場所とし、護国神社拝殿を背に実施した和太鼓演奏、福島の食材に特化した食ブースの展開、そして未来の故郷や子どもたちへの贈り物となる桜の植樹。このどれもが、福島の魅力・地力を大いに県内外へ発信してくれたものと考えております。

パークランニングレースは単にレースを行うだけではなく、様々な魅力を発信し、故郷への想いを今一度呼び覚ますキッカケとなるような大会にしようと、委員会メンバーが一丸となり、昼夜を問わず議論を交わし創り上げた大会でした。先に述べた食のブースにおいては、桜の聖母女子短大との共同企画にて誕生した「桜の聖母とのコラボ弁当２種」や地元企業とタレの開発から作り上げた「福島豚みそ生姜焼き弁当」、旬の地場野菜が中心の「地場野菜をたっぷり使った焼きそば」等、福島だから発信できる食の魅力を存分に味わって頂けたものと考えております。今年も食ブースはとても賑わい、目の前で和太鼓演奏を聴きながら、福島の味覚を楽しむ家族や友人同士で笑顔が絶えない時間となりました。

レース後は、参加者の皆さんに桜の苗木を植えていただく「Pink　Park　Project」も行いました。今年はまだ小さい苗木ですが、10年後、20年後の春には信夫山を華麗に彩ってくれるものと思います。福

島市は自然に恵まれ、果物や温泉街を有する観光資源豊かな街ですが、震災や原発事故の影響で観光客が減少し、福島への関心が失われている様に感じます。そこで、福島市の中心に位置し、福島市の観光資源の象徴でもある信夫山に着目し、「自然と共存するまち」として福島市の魅力・地力を発展昇華させたいという思いで、この事業を行いました。福島青年会議所の運動がパークランニングを通じ、皆さまの元へ届いたならば幸いです。

最後になりますが、事故や怪我人を出すことなく無事に事業を終了できましたのも、事業開催にあたり多くのご協賛やお手伝いを頂きました皆さまのお力添えがあったお陰です。担当委員会を代表して深く感謝を申し上げますと共に、次年度以降も変わらぬご協力を賜ります事を切にお願い申し上げ、第３回信夫山パークランニングレースのご報告に代えさせていただきます。

「第22回わらしっ子塾～スポーツの力で夢に近づこう～サッカー編」を終えて

ひとづくり委員会　委員長　**諸橋賢太郎**

去る2015年７月26日（日）に「第22回わらしっ子塾～スポーツの力で夢に近づこう～サッカー編」開催させていただきました。まずは、参加していただいた子ども達、協力していただいた皆様、応援にお越しいただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

私たちひとづくり委員会は、本年度子ども達にここ福島から夢や希望を叶える「きっかけ」掴んでもらい、福島を好きになってもらうことをテーマに事業を考えてきました。

今回のサッカー編では、福島ユナイテッドの協力のもと、何度も打ち合わせをし、子ども達に何を考えてもらうか、どんな事業にしたら子ども達に喜んでもらい「きっかけ」を掴んでもらえるのかを委員会メンバーと話し合いました。しかしながら、応募チラシを出してみると夏休み真っ只中で部活の試合や合宿などで、中々募集が集まらず参加者集めに奮闘しましたが、いろいろな方に協力していただき参加者を増やし事業を開催することが出来ました。

事業当日は朝から晴天、やる気も満々であづま運動公園の駐車場から競技場に歩いて行ったことを今

でも思い出します。メンバーと受付の準備をして子ども達を待ちました。一人、また一人と集まってくる子ども達を見ていて、事業が始まる実感が湧いてきました。子ども達も揃いみんなおそろいのＴシャツを着て開会式を行いました。開会式を終えて最初のプログラムである運営体験を班ごとに分けて実施しました。選手の写真入りののぼりを設置たり、スタジアム内を見学したり手伝ったりと選手以外の人たちがどのような仕事をし、努力して試合までを作っていくのかを勉強してもらいました。照り付ける日差しの中、笑顔で話す子ども達に「水飲んでおきなよ」「熱中症にならないように日陰にいてね」と声を

かけてくれているメンバー。「大丈夫だ」と確信して事業を進めていましたが、迫りくる「危険」にまだ気づいていませんでした。運営体験が終了し、続いてユナイテッドのプロ選手とのサッカースクールが始まりました。選手たちが実際試合をするピッチに入れるということで、子ども達も嬉しそうにしていました。ただ、気温も上がり、湿度も高くなってきており、水分補給、休憩をこまめにとってのサッカースクールになりましたが、選手と笑顔でボールを追いかける子ども達を見ていて青少年育成事業をやっていて本当に良かったと実感しました。サッカースクールが終わり記念撮影を撮った後に、「危険」が舞い降りてきました。一人の子が体調を崩し、チームドクターに診ていただくような事がおこりました。診断の結果は「熱中症」ということでした。その後も数名の子どもが体調を崩し、昼食時委員会メンバーと今後のプログラムを実施するか否かを話し合いました。苦渋の決断でしたが、事業の早期切り上げを決定いたしました。昼食後の講演会の後は保護者と子どもの自由参加ということで、保護者連絡をし、閉会式を行いました。子ども達のために最後までという想いもありましたが、これ以上の危険に子ども達をさらしてはいけないと言い聞かせ閉会式に臨みましたが、子ども達の「楽しかった」の言葉と笑顔や閉会式終了後に保護者の方とお話をさせていただいている時の「またいい事業があれば声をかけてください」という言葉に救われました。

最後に、福島青年会議所のメンバーの方に、「私たちメンバーにとっては22回のわらしっ子塾の一回かもしれない。でも、子ども達にとっては生涯の一回かもしれない」という言葉に胸を打たれました。今後企画しているわらしっ子塾でも、子ども達の記憶に残るような事業を委員会メンバーと作り上げていきたいと思います。

告知

公益社団法人　福島青年会議所　企画講演会

ゴルゴ松本氏「命の授業」公開講演会

来る10月27日（火）にゴルゴ松本氏による　「命の授業」公開講演会を開催致します。ゴルゴ松本氏は３年前より、ボランティアで全国の少年院を回り、少年達に漢字を使った命の尊さや、夢を諦めないで持つと言う事を伝える講演を開催しております。このような実績を受け今年の４月に法務省から表彰を受けております。

※授業の様子は　you tubeで「ゴルゴ松本　命の授業」と検索して頂ければ視聴できます。

講演会概要

日時：10月27日（火）

場所：福島県文化センター　大ホール

開演：18時45分

入場無料・全席自由

入場には整理券が必要となります。

整理券配布場所：

福島県文化センター大ホール

講演会の対象：

「中学生・高校生」、

「青少年の保護者・青少年の育成に関わる方」

今回の講演会は、ゴルゴ松本氏の「夢を掴む」という講演内容を聴いて頂き、青少年の方々に夢の実現を強く意識してもらうことで、これからの夢を叶えるきっかけとなればと思い開催致します。また、青少年の保護者・青少年の育成に関わる方にも同様の目線で夢について学んで頂けたらと思います。

この講演会がきっかけで、夢を意識し叶える青少年が増えて、福島の活性化に繋がっていく事が私達の想いです。

綱　領
われわれＪａｙｃｅｅは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース
FUKUSHIMA JUNIOR CHAMBER OF COMMERCE
═福島青年会議所新聞═

福島青年会議所新聞
WEB版
Vol.496
発行責任者　阿部　友弘
編集責任者　松田　覚

公益社団法人福島青年会議所 2015年度事業報告

理事長　阿部　友弘

不易流行

1963年、私たちの故郷であるこの福島の地に志を同じくする諸先輩方が「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下、社団法人福島青年会議所を設立なされました。それから今に至る間、時代毎の経済情勢や社会環境に応じた明るい豊かな社会の実現に向け、歩みを止めることなく活動を続けてきております。諸先輩方より受け継いだ英知と勇気と情熱の灯をさらに発展昇華させ次の世代に繋ぐべく「不易流行」を念頭にJAYCEEとして時代の求める姿に対応しなくてはならない部分、そして決して変えてはいけない部分をしっかりと次代へ繋ぎながら地域社会から求められる団体となるようひとづくり・まちづくり事業に邁進してまいりました。節目である50周年を経て、また公益社団法人として認可され、各事業も時代に合った時代の求めるものを展開できたと自負しております。

公益社団法人として

2013年5月に福島青年会議所は公益社団法人として登記されました。これにより法的にも我々の運動は「公益である」と認められるに至りました。これはゴールではなく新しいスタートだと考え、維持・継続に向けた会員の資質向上を行い、その結果として地域社会からより一層信頼され、求められる団体となるよう、そして市民から愛され必要とされる団体として存続できるよう努めてまいりました。結果として、市民のみなさまを巻き込んだ事業を多く開催することができ、当青年会議所への信頼と付託、なにより期待の大きさを感じることができる一年でした。適切な会計処理や法令順守など、専務理事や財政局のメンバーにも大きな役割を果たしていただき円滑なLOM運営を実現できたと実感しております。

未来を担う子どもたちへ

東日本大震災から4年以上が経過しました。その中でも特に大きな壁を越えなくてはならない福島の子どもたち。その福島の子どもが地元で生活をして地元に誇りを持つためにスポーツを通して夢を育む事業を展開しました。その中でも福島に本拠地を置くプロスポーツ団体の協力を仰ぎながら未来の福島に夢を持てるような内容だったと思います。また、本年もわんぱく相撲を開催することができ、福島からは全国大会に２名の出場を果たすことができました。両国国技館での全国大会ではそのスケールに瞳を輝かせる子どもたちに応援する我々親世代も熱中し、学校や塾などでは味わえない体験ができたので

はないかと思います。そんな貴重な経験ができる、この歴史ある本事業を今後も継承し続けていければと重ねて実感いたします。

愛する故郷のために

愛すべき故郷福島。そのシンボルである信夫山を市外に、県外に、そして世界に発信することができた一年だったと思います。２月の暁参りに合わせて実施した福男福女競走や桜の時期に信夫山の名所を回りながら楽しむことのできるパークランニングレース。どちらもアンケートや参加申込を見ると市外や県外の方の参加が目に付くようになってきました。参加者が福島の魅力を存分に堪能して、その良さを各々の地域で伝播させることでまた福島のファンが増えるという嬉しいスパイラルが構築されつつあります。この素晴らしい事業を今後もまちづくりの柱として実施していくよう心から祈るばかりです。また市民を巻き込む事業として、福島の未来構想に基づき市長対談を実施させていただきました。昨年のアンケートと一昨年の提言書を基にした対談で、今後は行政と我々のリアルなコミュニケーションがさらに必要だと痛感させられました。地域のオピニオンリーダーとしても我々が担う役割の大きさを実感した事業でもありました。

会員拡大

本年は13名の新入会員を仲間に加えることができました。人口減少や社会情勢の激変に伴う中での会員拡大は容易ではありません。しかし、地域にとって我々の運動は何物にも代えがたいのもであり決して絶やしてはならないものであります。そのためにも次年度以降もこの会員拡大については様々なアイデアと情報集約を用いて最善を尽くすことが何より重要であります。本年はノンフィクション作家の山根一眞氏を例会講師に迎え新入会員候補者に例会見学をしていただいたり、市民への公開講演会としてゴルゴ松本氏に「命の授業」の講演をしてもらったりと、青年会議所の認知度向上や会員拡大へ繋がる運動の発信に力を入れてきました。継続的発展を遂げるためにも皆様からの情報提供や紹介などもしやすい環境整備に次年度以降も努めていきたいと考えます。

東北の夢

2013年の小畑会頭輩出、2014年のASPAC山形大会開催、そして2015年に開催された全国大会東北八戸大会が新東北３つの夢として掲げられ集大成を迎えました。また本年は同じ県北エリアの二本松JCが浪江JCと共催で東北青年フォーラムを主管しました。どちらの大会も福島の復興、そして東北の復興を全国のメンバーに発信し、東北がそして福島がひとつになることができた大会だったと思います。この３つの夢を通して、いつか私たち福島青年会議所でも日本本会への役員輩出や前述の大会を誘致する機運が高まり地域の魅力を最大限発信できる場を創造できればいいなとしみじみ感じることができました。

ラストメッセージ

非日常の世界が日常である世界に身を置いて約９年の時間が経ちました。新入会員セミナーに参加する際、家を出ていく私を見ながら満足に話もできず泣いていた娘も今年１１歳となり親として著しい成長を実感しております。当時のことを自分の中ではほんの少しだけ昔と思っていましたが、世の中の動きはほんの少しだけではないようです。ＪＣ入会当初、９年後の社会で人口の約半分がスマホを持ち歩き街中の至る所で地図を見たり飲食店の情報を得たりゲームをしたりしているなどと想像できたでしょうか。テレビ放送が始まった50年前の人たちも５０年後に薄型の高性能テレビでクリアな映像を見るだ

けではなく双方向でのコミュニケーションが可能になっているなど想像できるでしょうか。同じように、今から５年後や10年後などはそれらと比べようもないほど時代の流れは速くなると思います。それはその時その時で過去の常識が通用しなくなるということなのだと思います。遅かれ早かれ国境なんてものは、いつかは形骸化し価値観のグローバル化は驚くほどのスピードで進行します。その時、それまでの常識を捨てる勇気を持つことができるかどうかだと考えます。次の世代のためにも、私たちの故郷・福島が世界から取り残されることなく発展を遂げるためにも、会員同士が時代の変化に対応しながら切磋琢磨をして自己を高め、そのことが地域社会のためになると私は信じています。妥協することなく行動してほしいと思います。

最後に、福島青年会議所　第52代理事長という身に余る重責を多くの方に支え励まされながら全うすることができました。福島ＪＣメンバーのみなさま、ＯＢ会員のみなさま、関係団体のみなさま、地域のみなさま、同志であります各地ＪＣメンバーのみなさま、本当にありがとうございました。全ての皆様に深く感謝申し上げると共に、２０１６年度は５３年目の新たな歴史を刻みます。今後とも福島ＪＣを何卒よろしくお願いします。一年間大変お世話になりました。

事業報告 ひとづくり委員会

委員長　**諸橋賢太郎**

本年度、ひとづくり委員会では「スポーツ」をテーマに一年間活動してまいりました。第２８回わんぱく相撲ＬＯＭ大会では、新たな試みとして大会前に相撲道についての講演会を実施しました。相撲の礼儀作法や心得を知った上での大会実施となり、子ども達にとってより良い事業となりました。そして、本年度は、わんぱく相撲のブロック大会も福島青年会議所が主催となり盛大に開催することが出来ました。

また、「わらしっ子塾」では、「スポーツの力で夢に近づこう」をテーマに、サッカー、野球、バスケの３事業を行い、子ども達に夢を叶えた地元のスポーツ選手や、著名な元プロ野球選手と近くで接して頂くことで、将来の夢について深く考える「きっかけ」を与える事業を開催することが出来ました。

１年間に５つ事業を行えたということは、大変なご尽力を頂いた委員会メンバーや、協力して頂いた皆様のおかげです。１年間、誠にありがとうございました

事業報告 まちづくり委員会

委員長　**黒澤　俊之**

本年度、まちづくり委員会では「故郷への想いと感謝を胸に、明るい豊かな福島を築き上げよう」をスローガンに一年間活動をしてまいりました。５月には第３回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催致しました。福島のシンボルである信夫山を５６７名もの参加者が爽やかに駆け抜けました。レース後には、桜の名所に新たに桜の苗木１１本の植樹を行い、福島の魅力を大いに発信することができました。

また、「福島の未来に必要なものとは～共に新たなる一歩を踏み出そう～」では、阿部理事長と小林香福島市長のお二方で、二年前に我々福島青年会議所が提言したふくしま未来構想についてトップ対談を実施していただき、現地点での双方の考えや福島市の今後の歩む道を周知することができました。

事業のみならず、ＪＣ活動・ＪＣ運動ともに先輩方からの想いを継承し、そして進化させられたのも、自ら考え行動してくれる素晴らしい委員会メンバーに恵まれたこと、また様々な場面で協力を惜しまず委員会を支えて下さった全ての皆さまのおかげであると、心から感謝しております。１年間、誠にありがとうございました。

事業報告 まつり委員会

委員長　情野　裕仁

まつり委員会では2015年度委員会スローガンとして「絆をもって誇りのある行動を！」を掲げ委員会活動をスタートさせました。

2月には「暁まいり　第三回福男福女競走」を開催し、初めての夜間開催において参加者や見学者、お手伝い頂いた方々、そして福島ＪＣのメンバー、みんなで極寒の中でも信夫山に熱気をもたらし、地域の伝統行事「暁参り」に市民の関心を高める事に成功しました。さらに、5月には「東北六魂祭ｉｎ秋田」、7月には「イタリア　ミラノ万博」に地域の伝統祭事であります「福島わらじまつり」を引っさげ参加してまいりました。大わらじを担いで勇壮に練り歩き、県外、海外に「福島」の元気を最大限発信してまいりました。そして、7月31日、8月1日に行われた「福島わらじまつり」の本祭開催です。2015年度まつり委員会の集大成とも言うべき本事業は「わらじつくり教室」、「わらじ競走」と祭の象徴である「わらじ」に特化し、事業を通して「福島わらじまつり」の楽しさ、「福島」の素晴らしさを存分に県内外の市民へＰＲできたと思っております。

正直申し上げて、大変でした。年度初めに掲げた上記のスローガンなどは今の時期には忘れていました。目的、意義なども忘れてただがむしゃらに取り組んでまいりました。ただ終わりに近づきそこには、「感謝」という気持ちは明確に残っております。

まつり委員会に携わって頂いた皆様に感謝申し上げて当委員会の事業報告とさせて頂きます。

本当にありがとうございました。

そして「やったれ！」

事業報告 会員拡大委員会

委員長　岸　秀樹

会員拡大委員会は～楽しくなけりゃ仲間の輪は拡がらない～をキーワードとして、多様な会員の増強を図ってまいりました。前年大成功をおさめた一斉拡大運動を継承しつつ新たな活動として会員拡大目的の対外向け及び対内向けセミナーを開催し、全員参加型の活動を目指してきました。講師講演会では、皆様のご協力のもと多くの見学者にご参加いただき、拡大の新たな手法が発見できました。有難う御座いました。

また、とうろう流し花火大会ではＪＣメンバー枠を超えて発興会、警察、市、県、国、消防署、消防団など多くの皆様に助けられ事故・ケガなく運営できました。花火打上の時間だけ、雨が止むといった奇跡も体験でき忘れられない事業となりました。

会員拡大はすべての基本であって、永続的に取り組む課題です。今後とも皆様のご協力をいただきながら、さらに意識を高め取り組んで参ります。１年間有難う御座いました。

事業報告 総務委員会

委員長　松田　覚

総務委員会は「堅実な運営に新たな試みを加えて、更なる高見を目指す！」をスローガンに一年間活動してまいりました。行った活動としては毎月の例会の設営、そしてなかでも10月例会前に「公開講演会　ゴルゴ松本　命の授業」を開催した事です。この事業を開催するに当たり、多くの壁がありました。しかし委員会メンバーに助かられなんとか事業を終える事が出来ました。また、会員向けＷＥＢ版欅の発信を行い、そして、理事会の議事録の作成を行い、その他にもさまざまな総務に関わる部分を担いました。

2015年が始まる準備段階から、12月例会・卒業式まで本当に息つく暇も無い、とっても盛り沢山な一年を過ごした今年一番の嵐を巻起す委員会だったと思います。しかしながら多くの方々に支えて頂き、また委員会メンバーに力を発揮してもらう事で一年間を乗り切る事が出来まし事を、心より御礼申し上げます。一年間誠にありがとうございました。

事業報告　事務局

事務局長　**瀬戸　秀典**

事務局は、明るい豊かな社会実現のため日々活動しているメンバーのサポートを中心に活動してきました。

三役会、理事会のサポートはもちろん、各種事業のサポート、他ＬＯＭとの連携事業参画、京都会議、サマーコンファレンス、全国会員大会東北八戸大会、福島ブロック協議会新春のつどい、福島ブロック協議会会員大会、東北青年フォーラム二本松浪江大会の参加など活動は多岐に亘ります。

本年は特に二本松市で開催され副主幹でもあった、東北青年フォーラム二本松浪江大会では、東北各地の同志に福島のソーシャルスットクである「わらじ祭り」を「わらじ競争」を紹介することができました。実はその時の担ぎ手は福島青年会議所メンバーでも初めてわらじを担ぐメンバーが多く楽しい思い出となりました。

最後に、我々事務局メンバーは理事長のおもいである「アガペー　無償の愛」 で一生懸命活動し、充実感に満ち溢れた１年でした。ありがとうございます。

事業報告　財政局

財政局長　**菅野　雅公**

２０１６年度の財政局の局長をさせていただきました菅野です。本当に右も左もわからない私でしたが、皆様に支えられてなんとか１年間やってこれました。委員長・副委員長には、私の至らぬ点が多々ありご迷惑をおかけしてばっかりの１年間だったように思います。申し訳御座いませんでした。渋谷次長・深瀬専務・加藤監事・佐藤監事・中尾監事には助けられてばかりで、頭があがりません。事業報告といいましても、基本的に各委員会の事業計画書をより良い物にするべく精査や助言をしていくというのが今年度の財政局の担いです。阿部理事長から、事業計画書のことは全て財政局に任せるとのお言葉をいただいたので、しっかりと担いを全うしようとした結果、財政審査会議がいつも終わるのが遅くなってしまい、参加していた皆様には大変な思いをさせてしまったと感じております。事業計画書はもう全て終わり、後は事業報告のみです。ここで心を緩ませず、しっかりと最後まで本年の担いを全うし次年度に引き継いでいきたいと思います。１年間ありがとうございました。